



# 吉川の自然を守ろう、伝えよう！

～ プロジェクトY「古河川をきれいに」 ～

第4学年 男子9名 女子7名 計16名

## 1 単元設定の理由

### 単元の目標

○吉川の自然についての現状を知って課題をもち、自然を守るための具体的な取組を考えたり実践したりする活動を通して、人間の生活と自然環境が密接に関わっていることに気付くとともに、自然環境を守っていくための取組を分かりやすく伝えるために、相手や目的に応じて表現する力を付け、課題の解決に向け、主体的・協働的に取り組む態度を身に付ける。

### 児童の実態

○本学級の児童は、1・2年生で町探検やザリガニ釣り、3年生で「吉川のすてき」を見つける学習をしており、吉川の地域の様子についての理解を深めてきている。しかし、校区外から通学している児童も5名おり、吉川の自然の理解度に個人差が大きく、地域の自然を探究する経験はあまりしていない。  
○「吉川ふるさと学習アンケート」では、総合的な学習の時間について概ね肯定的な回答が多かった。しかし、「学んだことを形にしたり、進んで伝えたりすることができましたか。」の質問には、「あまりできなかった」と答えた児童が4人と多かった。また、「資質・能力アンケート」では、「調べたことを相手や目的に合わせて伝える力」や「課題を自分ごととしてとらえ、解決に向けて自分から進んで学習に取り組む力」が低くなっている。

### 単元について

○導入では、第3学年で学習した「吉川のすてき」を振り返ることで、「吉川の自然」に関する事項が多かったことに改めて気付かせ、「自然を守り、伝える」というゴールを設定する。そして、児童に最も身近な古河川の水質調査を通して、「川をきれいにする」という課題をもち、そのための方法を、社会科「命とくらしを守る水」と関連させて考えたり、地域や市役所の方への聞き取り調査等を通して調べたりする。さらに、自分たちにできることを精選し実践することで、吉川の自然により関心をもち、将来にわたって自然環境を大切にすることを養うことができると考え、本単元を設定した。  
○児童は、川をきれいにする取組について、収集した情報を分類したり比較検討したりしながら、自然環境を守ることについて考えを深め、思考力を身に付けていく。さらに、実践したことや広めるべき取組を地域の方に伝える学習を通して、主体性・協働性を高めながら分かりやすく表現する力を育てることができると考える。この単元で身に付けた資質・能力はSDGsのゴール15「陸の豊かさを守ろう」につなげていくことができる。

### 指導にあたって

#### 〈研究主題にせまるために〉

主体的・協働的に学び、これからの社会を創ろうとする子供の育成  
～思考力・表現力を育む「深い学び」を目指して～

- 児童が見通しをもって活動できるよう、まず、「吉川の自然を守るためにできることを伝える」というゴールを設定する。ただ伝えるだけでなく、自分達にできることを考え、調べ、実践する機会を設けることで、より主体的・協働的に取り組めるようにしたい。
- 川をきれいにする方法を調べて自分たちにできることを分類したり、具体的な取組と環境への影響を関係付けたりする活動を通して、思考力を深めていく。さらに、自分たちの生活と自然環境が密接に結びついていることに気付かせ、調べたことや実践したことを根拠として、説得力のある意見を伝える力を身に付けさせたい。

本時における主体的・協働的な学びの工夫

- 児童同士で考えを深めていくことができるように、他のグループに質問したり、質問されたことについて考えたりする活動を設ける。
- アドバイザーとして講師を招くことで、児童だけでは気付かなかった新たな視点や課題をもち、よりよい方法へと思考を深めることができるようにする。

### 目指す児童の姿

○地域の自然の現状や課題に気付き、自然環境を守るためにできることを自ら考えたり調べたりしながら実践することを通して、ふるさとでの自然を大切にしたいという意欲をもつ子供

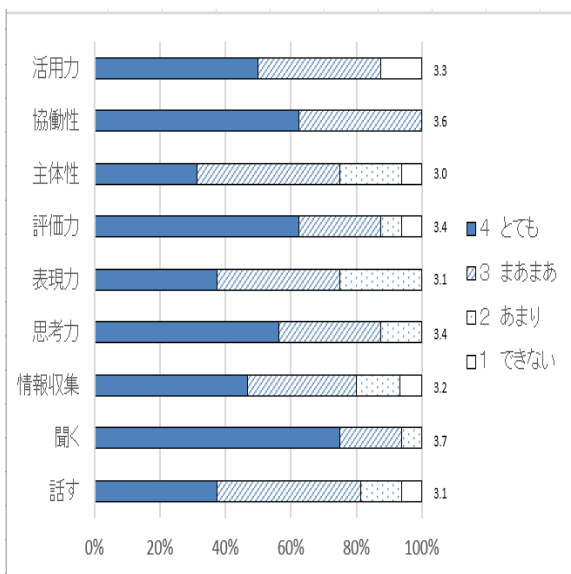
## 2 指導と評価計画（全50時間）

小単元 (時数)	思考力	小単元の目標と主な学習内容 ◎ねらい ○学習内容	評価の観点 (評価の方法)	教科・特別活 動等との関 連
1 10 (情報収集・課題発見)	整理する 関連付ける	◎吉川の自然（古河川）の現状について知り、 課題を設定することができる。  ○「吉川のすてき」を振り返り、吉川の自然の現状と課題 に着目する。  ○単元のゴールを設定する。  ○吉川の自然について知りたいこと、調べたいことをまと め、交流する。  ○古河川の生き物・水質調査を通して、課題をもつ。	主①(ワークシート・ 振り返り)  主①(ワークシート・ 振り返り)  主①(ワークシート・ 振り返り)  知④(行動観察・ 振り返り)	
2 30 (情報収集・整理・分析・実践)	整理する 分類する 理由付ける 関連付ける	◎自然を守っていくための具体的な取組を考え たり調べたりして、実践することを通して、 人々の生活と自然環境が結びついていること に気付く。  ○川をきれいにする方法について、自分の知識や経験を基 に考えたり、本やインターネット等で調べたりする。  ○地域の方がされていることや、地域の方の意見を聞く。  ○集めた方法を分類・整理し、グループで実践する方法を 選ぶ。  ○選んだ方法について、質問やアドバイスをもとによりよ いものになるよう深めていく。  ○実践する方法について話し合い決定する。  ○「川をきれいに」プロジェクトを実践する。  ○実践したことを振り返り、まとめる。	知②(ワークシート)  知④(ワークシート) 知③(ワークシート)  主②(行動観察・ 振り返り)  主①(ワークシート)  思①(ワークシート・ 振り返り)  知①(ワークシート)	理科(9月) 「雨水と地面」  社会科(9月) 「命とくらしを ささえる水」  国語科(9月) 「学校について しょうかいする ことを考えよ う」  算数科(5月) 「折れ線グラフ と表」
3 10 (まとめ・表現)	理由付ける	◎自然環境を守るための取組を、他者に伝える とともに、自分や学級の成長を確かめること ができる。  ○グループで協力して、伝える方法や相手を具体的に話し 合う。  ○相手や目的に応じて、自然環境を守る方法をまとめる。  ○相手にとって分かりやすい表現になっているか吟味す る。  ○学習の成果について振り返り、自分や学級の成長を確か める。	主②(行動観察) 知②(行動観察)  思②(制作物・行動観 察・振り返り)  主③(振り返り)  思③(ワークシート)	国語科(2月) 「調べたことを 報告しよう」  理科(2月) 「水のゆくえ」

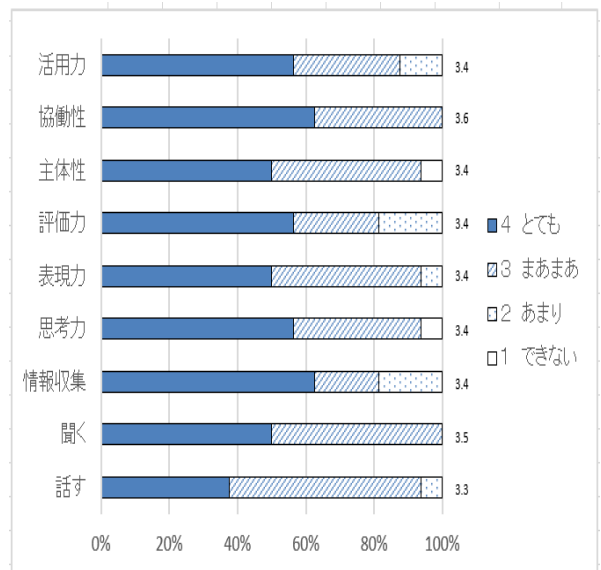
### 3 単元の評価観点・評価規準

評価の観点		評価規準			
		【A (★★★)】	【B (★★)】	【C (★)】	
知識・技能	知識	① 人々の生活と自然環境が密接に関わり合っていることと関係づけて、自然環境を守るための具体的な取組について理解している	① 自然環境を守るための具体的な取組について理解している。	① 吉川地域の自然について理解している。	
	課題発見・解決力	コミュニケーション能力	② 今までの活動や調べたことを根拠に挙げながら、自分の考えを話している。(話す力) ③ 友達の考えと自分の意見を比べながら、大事なことについてメモを取りながら聞いている。(聞く力)	② 根拠を挙げながら、自分の考えを話している。(話す力) ③ 友達の考えと自分の意見を比べながら聞いている。(聞く力)	② 自分の考えを話している。(話す力) ③ 友達の考えを聞いている。(聞く力)
		情報収集・活用力	④ 地域社会の中に問題や課題を見付け、必要な情報を集めたり選んだりして整理しながら、計画的に学習を進めている。	④ 地域社会の中に問題や課題を見付け、必要な情報を集めたり選んだりし、計画を立てながら学習を進めている。	④ 課題に合わせて必要な情報を集め、計画に沿って学習を進めている。
思考・判断・表現	思考力・表現力	思考力	① 収集した情報を基に、情報を整理する視点を明らかにした上で比較したり関係付けたり分類したりしながら、思考を深めている。	① 収集した情報を基に、比較したり関係付けたりしながら、思考を深めている。	① 収集した情報の内容を比較しながら、思考を深めている。
		表現力	② 課題解決に向けて調べたことを、相手や目的に応じてより伝わりやすい方法を用いて表現している。	② 課題解決に向けて調べたことを、相手や目的に応じて表現している。	② 課題解決に向けて調べたことを、自分の言葉で表現している。
		評価力	③ 自分の思いや新しい気付き、身に付いた力を意識し、自分のよさや成長を自覚するとともに、他者や学級全体の成長についても考えている。	③ 自分の思いや新しい気付き、身に付いた力を意識し、自分のよさや成長を自覚している。	③ 自分の思いや新しい気付きを自覚している。
主体的に学習に取り組む態度	主体性・協働性	主体性	① 課題を自分事として捉え、解決に向けてグループの意見をまとめながら新たな課題をもち主体的に取り組んでいる。	① 課題を自分事として捉え、新たな課題をもち、解決に向けて主体的に取り組んでいる。	① 課題を理解し、解決に向けて取り組んでいる。
		協働性	② 課題の解決に向けて、友達や身近な人々の意見の良さを生かし合いながら協力して活動している。	② 課題の解決に向けて、友達や身近な人々と意見を出し合いながら協力して活動している。	② 課題の解決に向けて、自分の意見を示しながら協力して活動している。
		活用力	③ 学習したことをその後の学習や生活に生かし、自分たちができることを他者に提案している。	③ 学習したことをその後の学習や生活に生かし、自分ができることを考えている。	③ 学習したことの中で、自分ができることを考えている。

### 4 単元の検証 児童アンケート結果の比較



資質能力アンケート (6月)



資質能力アンケート (12月)

## 5 成果と課題

### (1) 成果

【検証の視点②】SDGs・ESDの視点を生かした探究課題を設定し、主体的・協動的に学習することができたか。



地域の方から情報収集をする様子



考えたミッションを実践する様子(植樹)

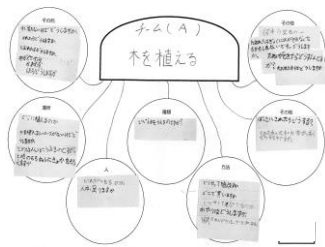
本単元では、SDGsのゴール15「陸の豊かさを守ろう」につながる学習を想定して単元を構成した。児童に身近な古河川を題材とし、「古河川を少しでもきれいにする」ための活動(ミッション)を自ら考え、実践するという学習に取り組んだ。その結果、児童の資質能力アンケートの「主体性」の項目で、平均値が3.0から3.4に伸びた。

課題発見・解決型の学習の流れを意識したことで、次々に生まれる疑問や課題について、自分達で情報収集しながら解決しようとする姿が随所に見られた。

自分達で考えたミッションを実践し、ゴールを達成できたことで、身近な自然環境について考え実践していく学習を深められたのではないかと考える。今回の学習をきっかけに、生態系の保護や森林の回復など、SDGsのゴールに向けたさらなる実践意欲の高まりが期待できる。

### (2) 課題

【検証の視点①】思考ツールの活用や対話的な学習を必然性のある場面で取り入れ、思考力・表現力を育成することができたか。



疑問や課題をまとめたクラゲチャート



思考ツールを活用しながら話し合う様子

本単元では、意見を整理しながら話し合いを進め、思考力をつけることができるようにするため、様々な思考ツールを活用した。特に小単元2では、ピラミッドチャートを用いてミッションの候補を絞り込んだり、クラゲチャートを使って意見や疑問を整理したりした。

しかしながら、こうした思考ツールの使い方について児童と深く共有できておらず、思考の深まりが見られない場面があった。より児童の思考力を付けていくためには、思考ツールの使い方だけでなく、そのツールを使うことでどんな利点があるのか、後の学習にどのようにつながるのか等を児童と十分共有しておく必要がある。こうした課題を教師側も常に意識し、他教科でも積極的に活用しながら思考を視覚化できる良さを実感させ、児童の思考力を高めていきたい。

### (3) 考察

単元全体として、古河川を中心とした吉川の自然を題材にしなが、自然環境を守っていく方法について学びを深められた。地域の方や自然環境に詳しい方と積極的に連携しながら実際に体験することを通して、吉川の自然をより身近に感じ、大切に守っていこうとする意欲を高められた。

また、児童の資質能力アンケートから、「情報収集」の項目で「よくできている」と回答した児童の割合が、6月47%から12月63%と大きく上がった。特に、川をきれいにするミッションの候補を絞り込んだり、決めたミッションの内容を深めたりする活動で、丁寧に情報収集を行った結果であろう。地域の方や市役所の方にアドバイスを聞いたり、アンケートを実施して広く情報を集めたりしたことが、ミッション実践に向けて児童の手応えになっていたことがうかがえる。

一方、来年度に向けての課題として、「振り返り」が挙げられる。「めあて」と「つけたい力」の2つの視点をどのように整理して振り返らせるのか、まずは教師自身が明確にしておかなければならない。また、振り返りの時間を確保し、振り返った内容を次につなげていくことで、より「深い学び」の定着を目指していく必要があると感じた。